

校長室の窓

令和８年９月24日
学校だより第６号より

～心が通う「ほけんのひろば」～

１・２年生教室を出てすぐ、廊下の壁に「ほけんのひろば」という掲示コーナーがあります。そこには、子供たちや先生方が自由に書き込める掲示板があります。「どのような夏休みを過ごしましたか」という呼び掛けの周りには、「全国大会で滋賀県に行きました」「ハワイアンズでショーやダンスを見ました」など、楽しい思い出を書いた付箋が並びました。子供が作ってきた誕生日カレンダーの周りには、「誕生日を教えてください」という呼び掛けや、それに答える友達や先生の付箋も貼られています。誰かが書き、それを読んだ誰かが返事を書く。小さな紙の上で、子供同士、子供と先生との温かなやり取りが続いています。

この掲示板は４月、養護担当の若手講師の発案で始まりました。「活用されていない掲示板を子供たちのために生かしたい」という思いを具現化するため、養護担当が企画書を作りました。そこには、互いのよさを見付けること、自分の活動や好きなことを伝え合うこと、子供だけでなく先生も参加することなどが「月立小フリートークボード」のコンセプトとしてまとめられました。

先輩の先生方も、この取組の実現に協力しました。職員打合せでは、全職員で目的とルールを検討し、安心して使える場にするため、悪口や人を傷付ける言葉を書かないという約束も決めました。担任は各学級で目的や約束を伝え、子供たちと一緒に書き込みに参加しました。

その後も、季節の話題や食育クイズ、靴ひも結びの練習コーナーなどが加わり、今も子供たちや先生方の書き込みが続いています。校長も、校庭に来るカラスについて調べたことを紹介しています。

この小さな掲示板は、子供たちが自分の出来事を伝え、友達や先生の言葉に触れる場所になっています。そこに並ぶ言葉から、本校の穏やかで温かな日常が伝わってきます。これからも、子供たちの小さな気付きや「伝えたい」という思いを大切にしていきたいと思います。